



社団法人 日本病理学会  
 〒113-0033  
 東京都文京区本郷2-40-9  
 ニュー赤門ビル4F  
 TEL: 03-5684-6886  
 FAX: 03-5684-6936  
 E-mail jsp-admin@umin.ac.jp  
 http://jsp.umin.ac.jp/

社団法人日本病理学会

第226号

平成18年(2006年)11月刊

「診断病理」編集長の公募について

平成18年11月  
 社団法人 日本病理学会  
 理事長 長村 義之

「診断病理」現編集長の任期満了にともない、平成19年度以降の編集長を下記の要領により募集いたします。応募、または推薦の書面を病理学会事務局までお送り下さい。

応募要領

1. 応募は自薦，他薦を問わないこと。
2. 応募者は，病理専門医である日本病理学会会員であること。
3. 応募者が自薦の場合は，氏名，所属機関，応募の要旨を，また他薦の場合は，推薦する候補者を加えて，記載した書面（書式は自由）を提出すること。
4. 任期は，平成19年4月1日より5年とすること。再任以降の任期は2年とすること。
5. 締め切りは，平成19年1月10日（消印有効）とすること。

お知らせ

1. 第48回藤原賞受賞候補者の推薦について

申込み締切り：平成19年1月31日

連絡先：(財)藤原科学財団

〒104-0061 中央区銀座3-7-12

TEL: 03-3561-7736 FAX: 03-3561-7860

2. 千里ライフサイエンスセミナー免疫・感染症シリーズ  
 第1回「自己免疫疾患とその制御」について

会期：平成19年2月7日

会場：千里ライフサイエンスセンタービル5階

連絡先：千里ライフサイエンス振興財団 セミナーW4  
 事務局

〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2

TEL: 06-6873-2001 FAX: 06-6873-2002

3. 中皮腫病理診断講習会について

日時・会場：

第1回（広島会場）平成19年2月10日（土）

11:00～16:00

広島大学附属病院大会議室

第2回（東京会場）平成19年2月24日（土）

11:00～16:00

順天堂大学医学部実習室

講習会内容：プレパラート（免疫組織化学的染色を含む）  
 の供覧と解説・質疑

連絡先：広島大学大学院医歯薬学総合研究科病理学  
 井内 康輝，武島 幸男

TEL: 082-257-5150, 5151 FAX: 082-257-5154

E-mail: koinai@hiroshima-u.ac.jp

ykotake@hiroshima-u.ac.jp

2007年 細胞診講習会受講申込受付中

病理専門医受験資格の要件のひとつとして細胞診に関する講習会を受講していることがあげられております。2007年以降受験予定の方で，未だ細胞診講習会を受講されていない方は，この講習会を受講して下さい（支部主催の講習会は，受験資格に認められておりません）。

受講希望者は，会報225号（10月刊）をご参照下さい。

# 日本医学会だより

JAMS News

2006年10月 No. 36  
日本医学会

## ◆日本医学会・日本医師会合同シンポジウム

「医師の専門分野の偏在—現状とその対策—」をテーマに、2006年10月12日(木)、日本医師会大講堂において開催。組織委員は、金澤一郎、鴨下重彦、木下勝之の各氏。参加希望者は、郵便はがき、FAX、本会ホームページ(<http://www.med.or.jp/jams/>)にて、申し込まれたい。参加費無料。プログラムは、下記のとおり。終了後、シンポジウムの映像配信を予定。

- ・若手医師から—産婦人科教育・診療の現場から/宮城悦子(横浜市立大・産婦人科)
- ・若手医師から—小児科医の現状/杉村洋子(東京大・小児医学)
- ・若手医師から—救急医学/近藤久禎(日医大・高度救急救命センター)
- ・マスメディアから—安心・納得の医療のために/飯野奈津子(NHK解説委員)
- ・産婦人科から—産婦人科医療の現状と対策/吉川裕之(筑波大・婦人周産期医学)
- ・小児科から—「小児科医が足りない」とはどういうことか—そしてその対策は—/別所文雄(杏林大・小児科)
- ・救急医学から/有賀 徹(昭和大・救急医学)
- ・厚生労働省から/宮崎雅則(厚労省医政局医事課医師臨床研修推進室)

## ◆第3回日本医学会公開フォーラム

「医学・医療の今—がんに挑む—大腸がん」をテーマに、12月16日(土、日本医師会大講堂)に開催。

組織委員は、垣添忠生、森谷宜皓、五阿弥宏安の各氏。昨年度から市民を対象とした公開フォーラムを企画した。このフォーラムの状況をホームページにて映像配信する予定。

参加希望者は、郵便はがき、FAX、本会ホームページ(<http://www.med.or.jp/jams/>)にて、申し込まれたい。参加費無料。プログラムは、下記のとおり。フォーラムは、演者が医師のみに止まらず、とくに患者である方の講演が聴講できる。

- ・画像診断/今井 裕(東海大学医学部/基盤診療学系画像診断学)
- ・内視鏡診断・治療/工藤進英(昭和大学横浜市北部病院消化器センター/消化器科)
- ・手術療法(含む疫学)/森谷宜皓(国立がんセンター中央病院 特殊病棟部)
- ・化学療法/室 圭(愛知県がんセンター中央病院薬物療法部)
- ・大腸がんを患って—患者の立場から—/石坂浩二(俳優)

## ◆医学賞・医学研究助成費の決定

選考委員会を9月6日に開催し、平成18年度の日本医師会医学賞・医学研究助成費の授賞が決定した。

本選考は、日本医師会から日本医学会に委任されており、今年度の推薦数：医学賞14、助成費61を審査した。

選考の結果、11月1日の日本医師会設立記念医学大会において、医学賞は3名、助成費は15件を授与される。

選考の結果は下記のとおり。

#### 〈日本医師会医学賞〉

- ・ TGF- $\beta$  のシグナル伝達機構とがんの新たな治療法に関する研究/宮園浩平(東大・分子病理学)
- ・ 心血管系の構築改変の新しい分子機構と創薬/永井良三(東大・循環器内科学)
- ・ 肝切除と肝移植の安全性向上に関する総合的・相互的研究/幕内雅敏(東大・肝胆膵外科学)

#### 〈日本医師会医学研究助成費〉

- ・ ジストニアパーキンソニズムモデルマウスの作製とその解析/池田啓子(自治医大分子病態研センター・細胞生物研究部)
- ・ パターン認識分子 (Toll 様受容体と肺コレクチン) による自然免疫生体防御/黒木由夫(札幌医大・生化学)
- ・ 筋無力症発症の分子メカニズムの解明とその診断, 治療および予防法の開発/重本和宏(愛媛大・予防医学)
- ・ がん幹細胞を標的とした新しいがん免疫治療に関する基盤的研究/清野研一郎(聖マ医大難治研センター・分子治療学)
- ・ ヒト胎盤発生工学と再生医療システム構築への応用/有馬隆博(東北大・産婦人科学)
- ・ 眼内血管増殖疾患とエリスロポエチンによる血管制御/高木 均(兵庫県立尼崎病院・眼科学)
- ・ 疫学的手法による性ホルモン関連がん(乳がん, 卵巣がん, 子宮内膜がん, 前立腺がん)のリスク要因解明と予防への応用/森 満(札幌医大・公衆衛生学)
- ・ デジタルマンモグラフィによる乳がん検診の精度評価に関する研究/大内憲明(東北大・腫瘍外科学)
- ・ テロメラゼ複合体遺伝子異常で発症する骨髄不全症に対する新規造血幹細胞移植治療, 遺伝子治療の開発/山口博樹(日医大・血液内科学)

- ・ 発現誘導型トランスジェニックマウスを用いた心不全発症機構解明と新たな治療法の開発/塩島一朗(千葉大・心血管病態解析学)
- ・ 脂肪細胞由来の抗糖尿病・抗動脈硬化ホルモン, アディポネクチンの受容体の作用メカニズム・病態生理学的意義の解明/山内敏正(東大・糖尿病・代謝内科学)
- ・ 地域基盤型研究による認知症性疾患の早期診断及び予防法開発/山田正仁(金沢大・神経内科学)
- ・ 心臓手術後心房細動に対する遺伝子治療/石井庸介(日医大・心臓血管外科学)
- ・ 卵巣悪性胚細胞腫瘍の基礎的・臨床的研究/吉川史隆(名大・産婦人科学)
- ・ 黄斑網膜再生による加齢黄斑変性に対する新規治療法の開発/玉置泰裕(東大・眼科学)

### ◻「日本医学会医学用語辞典」改訂 第3版

医学用語管理委員会は, 開原成允委員長の下, 「日本医学会医学用語辞典」改訂第3版を, 2007年4月発行予定で作業を行っている。

今回の改訂の趣旨は, 医学用語の国際性と各学会との関連用語の整合性を図ることにあり, 次の目標で改訂を行うこととした。1) 採用する英語は現在英語圏で使われている英語をできるだけ採用すること。2) 対応する日本語はできるだけ1語とし, 複数語ある時は, 日本医学会として使うべき日本語を推奨語として示すこと。

すでに7月24日に, 平成18年度日本医学会分科会用語委員会を開催し, 改訂作業の協力を各分科会にお願いした。席上, 日本医学会分科会用語委員から熱心な質疑応答があり, 現在, 辞典改訂のための協力をいただいている。分科会用語委員会の詳細は, 日本医学会のホームページ (<http://www.med.or.jp/jams>) の「医学用語管理」の「委員会の活動」の項をご覧ください。